

熊本地震における災害医療支援

DMA Tという医療チームがあることを知っていますか。Disaster Medical Assistance Team（災害医療派遣チーム）の頭文字をとって、DMA Tと呼びます。医師、看護師を含む5人1チームで構成しています。厚生労働省により、阪神淡路大震災の教訓から“一人でも多く



の命を助けよう”と平成17年4月から発足しました。今回、4月14日に熊本県益城町で震度7の激しい地震が発生したため、大和高田市立病院に配置されているDMA Tチームに厚生労働省の要請があり、4月16日に出動しました。

私たちは熊本赤十字病院を活動拠点本部として、4月17日八代市災害対策本部の立ち上げを支援し、避難所の医療ニーズの判断材料を目的とした、八代市内の避難所の情報収集と医療パトロールを行いました。

4月18日、熊本医療センターで医師と看護師は診療支援を行い、薬剤師と臨床工学技士は病院対策本部活動の支援を行いました。

今回は、DMA Tとして、初めての派遣活動でした。現場では、多くの役割が求められ、臨機応変に対応しました。その中で、被災者、支援者に関わらず、人と人が寄り添い、声をかけながら助け合っている姿を見て、人とのつながりの大切さを、改めて学びました。

〔3B さわか病棟 吉岡達也〕

熊本地震災害支援ナース活動について

私は、奈良県看護協会に登録している災害支援ナースです。5月14日から5月17日まで、熊本県甲佐町総合保健福祉センターで、支援活動を行いました。役割は、センター内外4箇所の避難所で、避難者の夜間急変時対応と、避難者の健康確認でした。それ以外に、健康保持についての指導や環境整備、自立に向けての支援活動、感染対策、他の地区の戸別訪問などを行いました。余震が続き、不安な毎日を過ごす人と、時間を共有し傾聴するよう努めました。他府県から参加している保健師、公衆衛生チーム、リハビリチームと協力しながら活動ができ、災害支援ナースとして本当に貴重な経験となりました。



〔外来診療科 橋本知幸〕